

目的

本校

- ◆自力通学を行うというニーズの高まりの中、乗降車の方法やマナーを理解し、地域資源の活用によって実際の対応を身に付ける。
- ◆本校内で、実際のバスを活用した乗降車の練習を行うことにより、少ない授業時数の中で教育効果を高める。

バス会社

- ◆授業を通じて路線バスの利用機会をつくり出し、障がいのあるお客様と直に触れ合うことで、障がいのある方への理解と対応力を深める。
- ◆公共交通機関としての地域貢献やメディアを通じた企業イメージを高める。



協働した授業づくり

実際のバスを活用したバス講座

乗降車マナー



紙芝居による、乗降車マナーの説明

バス設備の説明



バスの設備の説明や非常口の確認、車いすでの乗車体験

バスの乗降車練習



実際に使用するバス停の標識を校内の駐車場に設置し、混雑状態や雨の日など、場を設定した乗降車練習

路線バスへの掲示



実際に生徒が乗車する路線バスに「たつだぐち」のカードを提示

学習展開と学びの効果

校内での模擬乗降車練習



教室内でICTを活用し、バス車内に見立てた乗降車練習

実際のバスでの乗降車練習



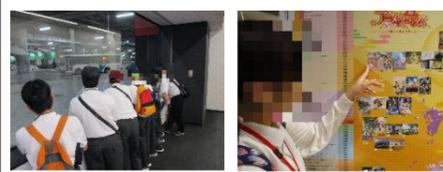
バス会社の協力で、校内で本物のバスを活用した乗降車練習

路線バスでの乗降車練習 乗り過ごした時の対応学習



校内での学習をもとに実際に路線バスで乗降車練習

路線バスを活用した校外学習



生徒の居住地や実態等で班編成し、各班に応じた学習を展開

校外学習に向けての調べ学習（総合的な学習の時間）

令和元年度は、桜町バスターミナルのリニューアルと、サクラマチクマモトという複合商業施設の開業に伴い、登下校にかかわる時刻表の確認や乗降口の確認を行った。また、余暇の充実に向けて、カフェ班、ショッピング班、乗り物班に分かれて、見学や昼食などについて計画し、前時の社会科での学びを活用して校外での学習に取り組むことができた。

学びの深まり（事例 中1男子生徒）

学習前

- ◆入学時は、保護者の送迎で登校していた。
- ◆7月の支援者ミーティングで、3年後の目標に一人でバスを利用できるようになることを掲げ、登校時のみバスを利用できるようになった。
- ◆バスを乗り継いで登下校することが難しいという課題があった。

校外学習

- ◆校外学習で、バスターミナルの時刻表や乗り継いで自宅まで行ける乗降口の場所の確認を行った。



学習後

- ◆保護者と3回乗り継ぎによる下校の練習を行った。
- ◆乗り継ぎを含めたバスでの登下校ができるようになった。
- ◆「サクラマチクマモトに行きたい」「乗り継ぎをして一人で出かけたかった」等の言葉が本人から聞かれるようになった。

まとめ

- ◆校内で実際のバスを活用することは、他の利用者を気にせず、様々な場面の設定（混雑時や雨の日）で乗降車練習を行えるため、生徒にとってゆとりをもって学習を深めることができ効果的であった。
- ◆バス会社と協働して3年間学習を継続してきたことにより、3年生が2年生、1年生の手本となり、教育効果を高めている。
- ◆相手に伝えるコミュニケーションスキルや席の優先席や乗車マナーの理解など、生徒一人一人の課題も確認できたので、教科等横断的な視点で次年度のカリキュラムに生かしていきたい。